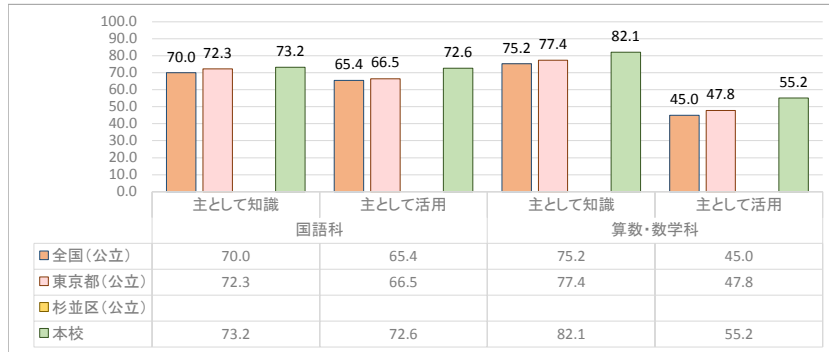
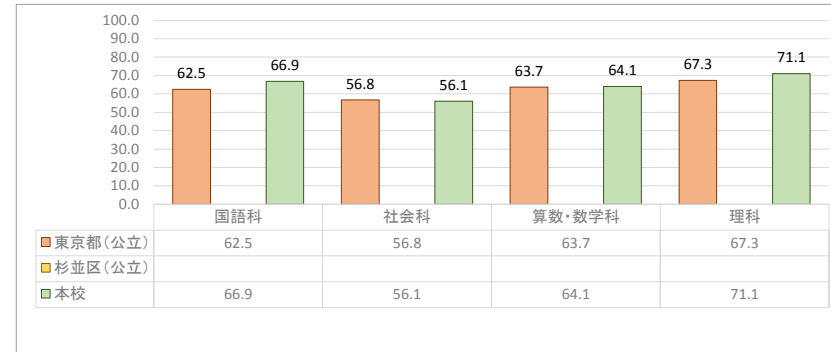


■全国「学力・学習状況調査」(小学校第6学年)



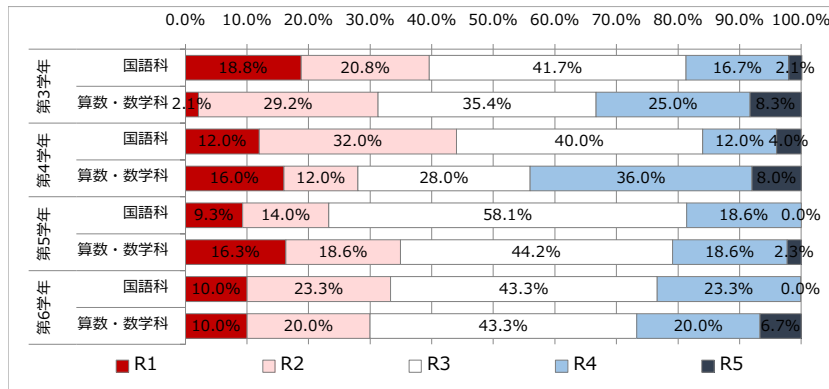
平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

■東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校第5学年)



平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

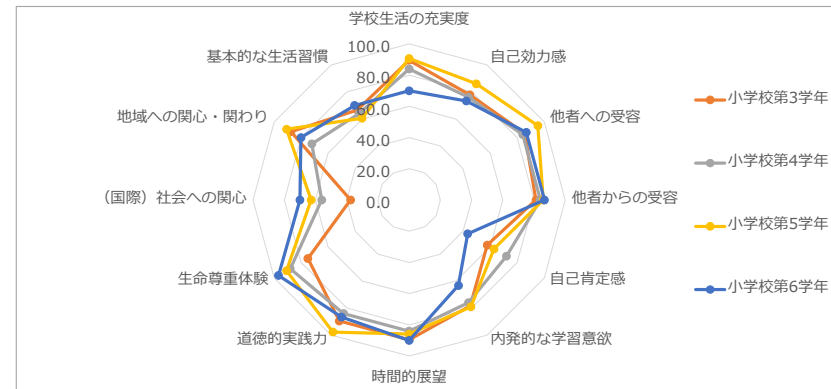
■杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」(小学校第3学年から第6学年)



学習指導要領に準拠した学習状況の評価(当該学年の全児童に占める各段階の児童の割合、%)

R1: 学び残が多い R2: 特定の内容でつまづきがある R3: おおむね定着がみられる  
R4: 十分な定着がみられる R5: 発展的な力が身に付いている

※空白は未実施の学年(小学校第5・6学年は各学校の希望実施)



肯定率(肯定的な回答をした児童生徒の割合、%)

■調査結果の考察と今後の取組

- ・全国学力調査、東京都学力向上調査の結果から本校は全ての教科に於いて正答率がほぼ同じに上回っている。日頃の授業の効果が表れている。
- ・杉並区「特定課題調査」の結果から
  - 《国語》○学年によってばらつきがあるが7割以上～6割が、R3(おおむね定着が見られる)以上の範囲以上に入っている。R4(十分な定着が見られる)以上の範囲にいるのは、2割程度である。
  - ・R1をR2へR2をR3へ向上させるために、「聞く・話す」ことについて、特に重点的に傾聴について指導していく。2人、少人数、全体での話し合い活動を多く取り入れコミュニケーション能力を向上させていく。
  - ・「読む」については、学校図書館を活用し学校司書と連携を密にして読書活動をさらに活発なものにしていく。「書く」ことについては東京ベーシックドリル等を用いて書く活動を多く取り入れる。
  - 《算数》○7割近くがR3(おおむね定着が見られる)以上の範囲に入っている。3年生は3割以上、4年生は4割以上がR4(十分な定着が見られる)以上の範囲にいる。
- ・中学年は少人数算数の成果が表れている。今後も、個別学習が十分できるようグループの人数を調整し、R1、2を減らしていく。ベーシックドリルを活用し反復学習を継続し基礎的・基本的な内容の定着を図る。